

# 人文・社会系教務委員の立場から

オープンユニバーシティ・准教授  
保阪 靖人

人文・社会系の教員は基礎教育においてかなりの科目を担当したり、非常勤の手当をしています。以下の資料は平成18年度のもので、次の「基礎教育について(1)」は、都市教養科目群についての担当科目数であり、「基礎ゼミナール」は77のうちの10、「都市教養プログラム」は137あるうちの44を担当しています。

す。つまり大学全体として増えていることとなります。これは、通年の授業が、前期・後期に分かれるとそれだけで科目数は2倍になってしまうことや、コース・学部が増えたことが影響していると考えられます。科目増減で深刻なのは英語であり、212から608に増えています。未修言語は150から168ですので、1割程度の増加です。

## 基礎教育について(1)

### [都市教養科目群]

#### 基礎教養科目：

- 実践英語(608 NSE: 304) [健康福祉 4/2]
- (情報科目)
- 基礎ゼミナール(10/77)
- 都市教養プログラム(44/137)

## 平成16年度と平成18年度の比較

	平成16年 人文学部	平成18年 首都大	平成16年 他学部	平成18年人文・ 社会系以外
教養科目	71	71	206	315
英語	212	608		
未修言語	150	168		

次の「基礎教育について(2)」では、「未修言語科目」の授業数と、その他の教養科目の授業数を示しています。「未修言語」は168、「その他の教養科目」58のうちの27を担当しています。

しかしながら、次の「外国語の非常勤の比率の推移」をご覧ください。ご覧いただければお分かりになるように、1割程度の増加の未修言語でも非常勤の比率は18%から60%に増加しています。この理由には以下のことが挙げられます。

## 基礎教育について(2)

### [共通基礎教養科目群]

#### 共通教養科目

- 未修言語科目(168)
- (保健体育科目)
- その他の教養科目(27/58)
- (理工系共通基礎科目)

- 1) 教員が退職によって激減しているのに対して、その手当がなされていません。
- 2) 東京都立大学において未修言語は、必修でした。しかしながら、首都大学では一部の学系・コースにおいてのみ必修であり、それ以外では選択になったにもかかわらず、かなりの高い比率で学生が履修しています。

科目が選択になった場合には、特に外国語の場合、履修率が落ちるのが普通です。その点で学生の意欲・見識はとても高いと評価できます。

授業数自体はかなりの割合で増えてきています。次の「平成16年度と平成18年度との比較」をご覧ください。「教養科目」(都市プロ、その他の教養科目)というおおよばな名前でもくった科目名の担当数では、人文社会系は71であり、平成16年度と平成18年度に特に違いはありませんが、他学部では206から315と増えていま

<sup>1</sup> 人文・社会系、地理環境コース、建築都市コース

## 外国語の非常勤の比率の推移

	都立大学	比率	首都大学	比率
英語	212/29	13.7%	304/212	70%
未修言語	150/27	18 %	168/100	60%

ここで問題点を整理しますと、

1) 非常勤への依存が異常に高い。未修言語は6割であるが、重要な科目である英語の非常勤の比率が7割を占めるのは、大学の教育体制として問題である。人文・社会系はまだ過員があるため、このまま非常勤の比率は上昇し続ける。何らかの対策を中期計画以降に考えておく必要がある。また、このまま非常勤に依存する体制をとり続けるとしたら、外部から大学を評価される場合に、同一の教育レベル・教育目標が達成していることを示す方法についても検討しておく必要がある。

2) 定数管理の面から、さらに専任の教員が減った場合に、教員をどのように採用するのか、という問題がある。人文・社会系において語学教員が配属されているのは欧米文化論分野であるが、構造的問題として、この分野での過員解消にはかなり時間がかかるため、当分採用の見込みがない。基礎教育センターを拡充してスタッフを置くのか、オープンユニバーシティにスタッフを置くのか、などの案も考えられるが、うまく対応しないと語学教育に関しては非常勤だけの大学になってしまう。

3) 時間割に問題がある。都市教養科目群、共通基礎教養科目群については、固定時間割で配置を行っている。しかしながら、学生が所属するコースによっては、かなり空き時間が出るものがある。

この3) についてももう少し詳しく述べますと、木曜日に未修言語の授業が設定されていますが、健康福祉学部の学生は、ほかの授業が全くないのに、その科目だけを履修するために大学に来る学生が少からずいます<sup>2</sup>。このことは、次の「未修言語科目の履修について」をご覧くださいただければ分かります。未修言語は選択科目にもかかわらず、9割近い学生が履修していますが、健康福祉学部の学生の履修率はかなり落ちています。これは学生の意欲がないのではなく、不利な履修の状況でもかなりがんばって履修しているという学生の意欲の高さを評価すべきだと考えます。今後は時間割の工夫を含めて、なるべく学生にとって履修しやすい科目配置などが必要です。

## 未修言語科目の履修について

平成18年度 一年生

	ドイツ語	フランス語	中国語	朝鮮語	計	新入生	履修率
人文・社会系	93	54	50	13	210	213	98.60%
法学系	94	39	75	24	232	240	96.70%
経営学系	70	46	91	16	223	251	88.80%
理工学系	148	36	48	19	251	286	87.80%
都市環境	83	41	60	15	199	219	90.90%
システムデザイン	97	60	62	17	236	283	83.40%
健康福祉	67	12	15	9	103	207	49.80%
計	652	288	401	113	1454	1699	85.60%

<sup>2</sup> 平成19年度は少し改善された。